



2020年9月28日
株式会社 阿波銀行

レンゴー株式会社向け ポジティブ・インパクト・ファイナンスのシンジケートローン参加について

阿波銀行（頭取：長岡 奨、本店所在地：徳島県徳島市）は、レンゴー株式会社（代表取締役社長兼COO：川本 洋祐、本店所在地：大阪府大阪市）を借入人とする、国連環境計画金融イニシアティブ（以下、「UNEP FI」）（※1）が提唱したポジティブ・インパクト金融原則（※2）に即した「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」（※3、以下「本件PIF」）のシンジケートローンに参加いたしますので、お知らせします。

本件PIFに係るインパクト評価は、シンジケートローンのアレンジャーおよびエージェントである三井住友信託銀行株式会社（取締役社長：橋本 勝）が実施しております（※4）。

レンゴーグループは、製紙、段ボール、紙器、軟包装、重包装および海外の6つのコア事業を中心に、“Less is more.”をキーワードとし、より少ない資源で大きな価値を生むパッケージの開発に取組み、持続可能な社会の実現に貢献しています（※5）。

当行は、本件PIFへの取組みを含め、SDGsの目標達成に資するお客さまの事業活動を支援するとともに、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

記

■シンジケートローンの概要

借入人	レンゴー株式会社
契約締結日	2020年9月28日
アレンジャー/エージェント	三井住友信託銀行株式会社
組成金額	50億円
資金使途	運転資金
貸付人	株式会社阿波銀行 他15社

以上

(※1) 国連環境計画金融イニシアティブ (UNEP FI)

国連環境計画 (UNEP) は、1972 年に「人間環境宣言」および「環境国際行動計画」の実行機関として設立された国連の補助機関です。UNEP FI は、UNEP と 200 以上の世界の金融機関による広範で緊密なパートナーシップであり、1992 年の設立以来、金融機関、政策・規制当局と協調し、経済的発展と ESG (環境・社会・企業統治) への配慮を統合した金融システムへの転換を進めています。

(※2) ポジティブ・インパクト金融原則

UNEP FI が 2017 年 1 月に策定した、SDGs (持続可能な開発目標) の達成に向けた金融の枠組です。企業が SDGs の達成への貢献を KPI で開示し、銀行はそのプラスの影響を評価して資金提供を行うことにより、資金提供先企業によるプラスの影響の増大、マイナスの影響の低減の努力を導くものです。

融資を実行する銀行は、責任ある金融機関として、指標をモニタリングすることによって、インパクトが継続していることを確認します。

(※3) ポジティブ・インパクト・ファイナンス

企業活動が環境・社会・経済におよぼすインパクト (ポジティブな影響とネガティブな影響) を包括的に分析・評価し、当該活動の継続的な支援を目的とした融資であり、企業による SDGs 達成への貢献度合いを評価指標として活用し、情報開示することが最大の特徴です。

(※4) 2020 年 9 月 28 日付 三井住友信託銀行株式会社のニュースリリースをご参照ください。

<https://www.smtb.jp/corporate/release/>

(※5) レンゴー株式会社のウェブサイトをご参照ください。

<https://www.rengo.co.jp/>